

記者発表				
月/日(曜日)	担当部署名	電話番号 (ダイヤル)	発表者名 (担当者)	その他配布先
11月8日(木) 14:00	県立考古博物館 埋蔵文化財課	079(437)5595	副館長兼総務部長 木下 吉明 (埋蔵文化財課長 中川 渉)	東播磨県民局

片山遺跡（加古川市八幡町下村）の発掘調査成果と現地説明会について

内 容

東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業に伴って、兵庫県教育委員会は(公財)兵庫県まちづくり技術センターに委託して、片山遺跡（かたやまいせき）の発掘調査を行っています。

調査は1月中旬まで予定していますが、これまでの調査の結果、弥生時代後期の集落遺跡が見つかっています。

調査成果を広く県民に公開するため、現地説明会を開催します。

【調査成果】

別紙、片山遺跡調査成果の概要のとおり

【現地説明会】

日時：平成30年11月10日(土) 13:30～15:00

場所：片山遺跡発掘調査現場（加古川市八幡町下村）別紙地図参照

※現地説明会・遺跡の内容に関する問い合わせは下記のとおりです。

〈現地説明会にかかる問い合わせ先〉

発掘調査現場事務所

担当 垣内拓郎主査、三好愛美臨時的専門職員

Tel 079(438)3188

(平日 12:10～13:00、17:00～18:00)

〈遺跡の内容にかかる問い合わせ先〉

(公財)兵庫県まちづくり技術センター

担当 埋蔵文化財調査部次長 甲斐 昭光

Tel 079(437)5561 (土・日曜を除く)

兵庫県立考古博物館

担当 総務部埋蔵文化財課長 中川 渉

Tel 079(437)5595 (土・日曜を除く)

片山遺跡（C地区）調査成果の概要

- 1 遺跡名 片山遺跡（かたやまいせき）
- 2 遺跡の種別 集落遺跡
- 3 遺跡の時代 弥生時代後期、平安時代後期
- 4 所在地 加古川市八幡町下村
- 5 調査面積 約 1,300 m²
- 6 調査期間 平成 30 年 9 月 5 日～平成 31 年 1 月 20 日（予定）
- 7 調査原因 東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業
- 8 調査主体 兵庫県教育委員会
- 9 調査機関 （公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
垣内拓郎主査、三好愛美臨時的専門職員

10 調査の概要

片山遺跡は、印南野台地の西端に位置する。調査地であるC地区は、標高約45mの段丘の縁辺に立地し、北側眼下には加古川や支流である草谷川の平野部が広がる。調査の結果、弥生時代後期、平安時代後期の集落跡が営まれていたことが明らかとなった。

《弥生時代後期（約 1,800 年前）》

- ① 竪穴住居跡が 3～4 棟見つかった。
- ② その内訳は、隅丸長方形の住居跡 1 棟（長辺約 5m、短辺約 3.5m）、円形（直径約 5m）の住居跡 1 棟、現在調査進行中で、さらに 1～2 棟増える見込みである。

《平安時代後期（約 900 年前）》

- ① 多数の柱穴跡があり、複数棟の掘立柱建物跡が存在していたとみられる。（調査中で棟数は検討中）
- ② 掘立柱建物跡の近くで見つかった土坑からは、須恵器碗の完形品や土師器の破片等がまとめて埋められた状態で出土した。

11 まとめ

- ① 印南野台地の段丘上に、弥生時代後期と平安時代後期の集落が存在していたことが明らかとなった。
- ② 段丘下の平野部に広がる下村遺跡との関係性や、未だによくわかっていない加古川左岸域の弥生時代の集落の動態を解明するうえで貴重な発見といえる。

片山遺跡 (C 地区)



見つかった弥生時代の住居跡(手前と奥)



平安時代の土坑の土器検出状況



土坑の完掘状況

片山遺跡発掘調査現地説明会 会場位置図



※現地説明会場および周辺には 広い駐車スペースがありません。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

○徒歩：JR厄神駅より南東へ約2km

※現地説明会場の出入口付近は交通量が多いため、ご注意ください。

